

請 願 文 書 表

(令和7年9月2日)

受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名	請願第8号（7. 9. 2） 核兵器禁止条約への署名・批准を要請する意見書提出を求める請願
請 願 の 要 旨	日本原水爆被害者団体協議会は、長年の運動が評価され、2024年12月10日にノーベル平和賞を受賞した。「生きている間に、この地球から核をなくしたい」という執念で声を上げ続けてきた原爆被害者は、この受賞を心から喜んでいる。 授賞式で、被爆者であるサーロー節子さんは、被爆した際の経験を語り、核兵器の恐ろしさと核兵器禁止条約の重要性を訴え、政府が早期に署名・批准するよう、市民の粘り強い行動を求めた。しかし、現在の国際情勢は、核兵器使用の危険と抑止力への依存が高まるなど、危機的な状況にある。 核兵器禁止条約は、2017年7月7日に採択され、2021年1月22日に発効し、2024年9月24日時点で94か国が署名し、73か国が批准している。しかし、唯一の被爆国である日本は、いまだに署名にすら応じていない。本来ならば、先頭に立って、各国へ核兵器禁止条約への批准を求めるべきである。 2024年7月11日時点で、全国の地方議会の41%に当たる726議会が、政府に対し、核兵器禁止条約への署名・批准等を求めている。兵庫県下では、明石市議会、芦屋市議会、尼崎市議会など13議会が参加している。神戸市会としても、早期に核兵器禁止条約への署名・批准を求める意見書を政府に提出するよう請願する。
請 願 者 の 住 所 及 び 氏 名	神戸市灘区 神戸市原爆被害者の会 会長 立 川 重 則
紹 介 議 員 の 氏 名	(代表) あわはら 富夫 味口 としゆき
付 託 委 員 会	総務財政委員会

神戸市会議長 様

2025 年 8 月 26 日

【請願者】 神戸市原爆2
神戸市原爆被害者の会
会長 立川 重則
【紹介議員】

味口 としゆき
(代表) あわはら 富夫

日本政府に『核兵器禁止条約』への署名・批准を求める請願

【請願趣旨】

2024 年 12 月 10 日、日本原水爆被害者団体協議会（二ホンヒダンキョウ）は、長年の草の根運動が評価され、ノーベル平和賞を受賞しました。被爆者の平均年齢は 86 歳。「生きている間に、この地球から核をなくしたい」という執念で声を上げ続けてきた原爆被害者は、この度の受賞を心より喜んでいきます。

しかし、現在の国際情勢は、被爆者の願いとは裏腹に、核兵器使用の危険と「抑止力」への依存が高まる等、危機的な状況にあります。

2017 年 7 月 7 日、多くの人の努力により『核兵器禁止条約』が採択され、2021 年 1 月 22 日発効、現在、94 カ国が署名、73 カ国が批准しています（2024 年 9 月 24 日現在）。しかし、唯一の被爆国のこの国は、未だに署名すら応じていません。本来ならば、先頭に立って、各国へ『核兵器禁止条約』批准を求めるべきではないでしょうか。

現在、日本政府に対して、全国自治体議会 1,788 議会の 41%、726 議会で、署名・批准等々、『核兵器禁止条約』への参加を求めています（2024 年 7 月 11 日現在）。ちなみに、兵庫県下では、明石市議会、芦屋市議会、尼崎市議会、淡路市議会、川西市議会、三木市議会等々、13 議会が参加しています。戦後 80 年・被爆 80 年を機に、神戸市議会としても、日本政府に対して、早期に署名・批准を求める意見書を提出することを強く求めたいと思います。

2024
2017 年 12 月 10 日のノーベル平和賞 授賞式で、被爆者のサーロー節子さんは、13 歳で被爆した際の経験を、がれきの下敷きになりながらも「諦めるな。押し続けろ。進み続けろ。光が見えるだろう。そこに向かって這ってゆけ」という声に導かれて助かった経験を語り、核兵器の恐ろしさと『核兵器禁止条約』の重要性を訴え、日本政府が、早期に署名・批准するよう、「一人ひとりの市民が粘り強く行動してほしい」と訴えました。

【請願事項】

- 1, 日本政府に『核兵器禁止条約』への署名・批准を求める意見書を提出すること